

埼玉は多文化先進地域

人の健康行動や健康状態は、仕事や職業、所得、学歴などの社会経済的な状況によって差があることが指摘されており、海外では国籍や人種による違いも明らかになっています。外国人の場合、災害時や新型コロナウイルス感染症のような健康問題の発生時には、情報が不足したりして健康リスクが高くなるかもしれませんし、同じ国や宗教の人たちとのつながりで心身の健康を維持しているかもしれない。日本に暮らす外国人の健康には、文化や言語、社会背景などの特徴が関連していると考えられます。

埼玉県は外国人が多く住む地域です。中国や韓国、フィリピン、ベトナムなどのアジア地域以外にも、欧米や南米、アフリカ地域など、多様な国



<49>

埼玉県立大学教授 若林チヒロ

の人たちが生活しています。仕事のために日本で暮らす人、留学生、日本人と結婚した人、親に同行した子どもたちなど、立場もさまざまです。外国人の人口を在留外国人統計（2019年末現在）で見ると、埼玉県は約19万6000人で、東京都、愛知県、大阪府、神奈川県に次いで第5位です。市区町村単位で見ると、川口市は約3万9000人、全国の自治体のうち新宿区、江戸川区と共に上位3

表 都道府県別外国人登録者数

順位	都道府県	人数
1	東京都	593,458
2	愛知県	281,153
3	大阪府	255,894
4	神奈川県	235,233
5	埼玉県	196,043
6	千葉県	167,512
7	兵庫県	115,681
8	静岡県	100,148

出所) 法務省.在留外国人統計 (2019年末現在)

働き方は健康水準に影響

位に入っています。草加市、越谷市、蕨市、川越市、戸田市も、全国の在留外国人数上位100自治体に入っています。これら統計には含まれていませんが、本人は日本国籍でも親や祖父母が外国籍という、多様な文化社会的背景を持つ子どもや大人も増えつつあります。

多様な国の人が増え始めたのは1980年前後からですが、川口市や越谷市などではごく早い時期から定住化が始まり、既に30年以上、外国の人たちと地域生活を共にする経験をしています。日本政府は、2019年4月に新たな在留資格制度をつくり、外国人の労働に門戸を広げる政策に転換しました。ITなどの高度専門技術や製造、建設、介護など、幅広い領域の仕事を共にすることに なります。働き方や職場環境、地域環境は健康水準に影響します。長年外国の人たちと地域生活を共にしてきた埼玉では、多文化健康社会の先進地域として、その経験を生かすことが期待できます。